



2/1 河合小6年生が卒業証書に使う
山中和紙を仕上げました

今春に卒業を迎える河合小学校の6年生5人が、自分たちの卒業証書に使う山中和紙を作りました。手漉き和紙職人の柏木昭人さんから指導を受けながら、紅葉の葉をあしらったりして完成させました。



2/3 講座「忙しくても“ジブンジカン”」を
保健センターが開催しました

育児や家事に追われ、自分のことは後回しになりがちな20～40歳代の女性を対象に、新しい健康講座「忙しくても“ジブンジカン”」が開かれ、バランスボールや食べ物の栄養に関する学びが行われました。



2/5 「^{とりぶし}止利仏師ものがたり」の復刻本を
河合小児童に寄贈しました

“飛騨の匠”のルーツとされる「止利仏師」を描いたマンガ本『止利仏師ものがたり』をこのほど復刻し、ダイジェスト版『天生に息づく 飛鳥のロマン 止利仏師伝説』とともに河合小児童28人に贈りました。



2/9 古川の砂田芳枝さんが **特レポ**
100歳を迎えられました

古川町信包の砂田芳枝さんがこのほど100歳を迎えられ、藤井弘史市民福祉部長が訪問して花束などを贈り、長寿をお祝いしました。週に2回デイサービスを利用されながら、生き生きと過ごされています。



2/10 1年間の取り組みを報告し、地域の
皆さんへ感謝の気持ちを伝えました

児童の学びに協力してくれる地域の皆さんや保護者、教育関係者などを招き、感謝の気持ちを伝えようと、宮川小学校で「感謝の会」が開かれ、1年間の学びを発表したり、感謝状を手渡しました。



2/17 高校生のアイデアで図書館が
「カフェ」になりました

インターンシップで飛騨市図書館を訪れた飛騨高山高校の3年生3人が、図書館の利用者を増やすために考えた企画をもとに、図書館イベント「図書館がカフェになればいい！」が開催されました。



市民ライターがまちの話題をお届け!! /
広報ひだまち特派員レポート
(特派員:水樹華・林実香)



2/19 能登半島地震災害義援金を寄付した人にクスノキの置物をプレゼント

古川町の手作り木細工工房あさじろう(竹本紀美子代表)が、能登半島地震災害義援金活動の後押しのため、クスノキの置物を製作しました。市内の公共施設8カ所にある募金箱周辺に設置しています。



2/22 古川中3年生が地域貢献活動「マイプロ」の成果を発表しました

古川中学校の3年生らが、自分の興味や関心があること、自分の得意とすることに楽しみながら取り組み、地域に貢献する課題探究活動「マイプロ」の一環で、今年度の取り組みの成果を発表しました。



2/24 荒垣秀雄顕彰作文コンクールの受賞者に表彰状が手渡されました

第6回荒垣秀雄顕彰作文コンクールの表彰式が開かれました。今回のテーマは「挑戦」。「小学生の部」7点、「中・高校生の部」156点、「一般の部」48点の計211点が全国から寄せられました。



2/19 持続可能な農業経営と農地保全に向けて意見交換を行いました

農地集約型の農業「土地利用型農業」の担い手である農家や営農組合の皆さん、市職員などで行く「飛騨市土地利用型農業検討会議」の会合が開かれ、今後の方針や課題などを話し合いました。



2/24 第67回飛騨神岡初金毘羅宵祭が盛大に開かれました

商売繁盛や家内安全を祈願して金毘羅のお札を先頭に掲げながら、地元企業や各種団体などが神輿や工夫を凝らした創作山車を曳き、神岡の町を練り歩く「飛騨神岡初金毘羅宵祭」が開かれました。



2/24 荒垣秀雄氏生誕120周年記念シンポジウムが開催されました

神岡町出身で、朝日新聞の名物コラム「天声人語」を長年執筆した荒垣秀雄氏の生誕120周年記念シンポジウムが開かれました。朝日新聞の近藤康太郎編集委員と都竹市長との対談が行われました。